

小田急線 参宮橋駅

ODAKYULINE SANGUBASHI STATION

No. 21-027-2021作成
改修・保存
その他

発注者	小田急電鉄株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社フジタ		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
	FUJITA CORPORATION		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	
施工	株式会社フジタ					

木と緑に溶け込む「杜」の玄関口



改札口

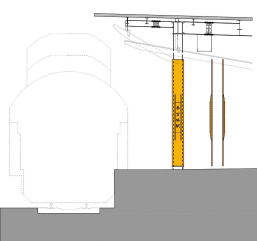
駅の木質化

小田急線「参宮橋駅」の駅舎・改札の増築・建替え、ホーム上屋の建替え、改修、跨線橋の改修を含めた駅全体の改良工事である。土地の歴史や明治神宮に隣接する緑豊かな立地特性から

“木と緑に溶け込む「杜」の玄関口”をデザインコンセプトに、駅周辺の環境との共生を図り、木の温かみが感じられ、地域の人々や利用客に愛され親しまれる駅空間の創出を目指した。

当プロジェクトは、多摩産材を使用することで「森林の循環」に貢献し、さらに「二酸化炭素排出量の削減」や「炭素の固定化」といった環境配慮設計により、地球温暖化防止に寄与している。

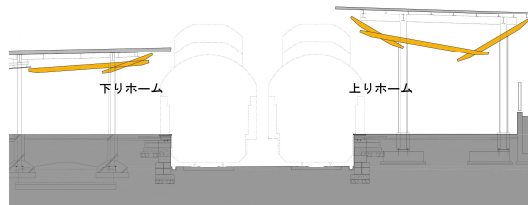
明治神宮の玄関口として明治神宮の鳥居や社殿をモチーフとして、改札上部は木組み、ホーム上家は社殿の垂木、ホーム柱は向拝柱を取り入れている。明治神宮の杜への玄関口として人々を迎え入れる、木の温かみを感じられる空間と印象に残る駅となった。



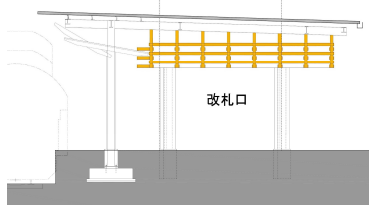
ホーム柱



改札口天井



ホーム上屋断面図

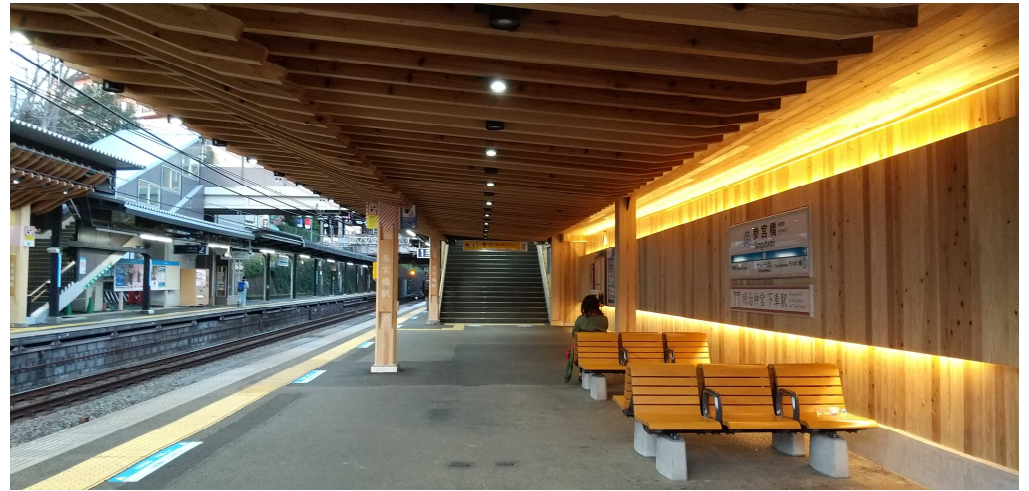
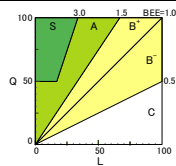


改札口断面図

建物データ	
所在地	東京都渋谷区
竣工年	2020年
敷地面積	1,222㎡
延床面積	316㎡
構造	S造
階数	地上2階

省エネルギー性能

CASBEE評価



東口新改札

長寿命化

半屋外で使用する木製ルーバーは軒先との位置・形状を考慮し雨掛かりを避け、耐候性塗料との組み合わせで長寿命化を図っている。

木を感じられるデザイン

新設した東口改札、客用トイレ等も木材を利用した仕上や、デザインを施し、駅施設全体で木のぬくもりを感じられる空間としている。



ホーム上屋

「にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業」の対象事業に指定

東京都多摩産材を使った「にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業」の対象事業者に選定され、東京の木多摩産材の普及と利用促進に貢献している。多摩産材を利用するほか、PR看板の設置、工事中のお知らせ看板の利用、ノベルティグッズの配布等、様々な取り組みを行った。



多摩産材PR看板



工事看板

設計担当者

総括：津村 彰/建築：久保田 佑介、中村 浩貴、秋山 智香/構造：西川 康志乃、朱 盈、設備：杉本 雄太郎

既存樹木の保存と再利用

既存樹木は樹木診断を実施。健全なものは残し、不健全樹木はやむを得ず伐採となりましたが、ポスターを掲げての周辺へのPRや、伐採した樹木を用いた木製コースターの配布を行い再利用している。



既存樹木伐採のお知らせ



既存樹木を利用したコースター

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2 . 2. 耐用性・信頼性 (木材利用部の雨掛かり低減と保護材の利用)
- Q3 . 1. 生物環境の保全と創出 (既存樹木の保存)
- Q3 . 2. まちなみ・景観への配慮 (地域性のある素材の利用、地域に根差したデザイン)
- LR2 . 2. 非再生性資源の使用量削減 (地産木材の利用)
- Z. 炭素の固定化 (木材利用によるCO2固定)